

### 二十一世紀の郷土を考える

田沼修 二(副会長)

あと四ヶ月あまりで二十一世紀を迎える。わが国の経済も政治も社会も行詰まった閉塞感に覆われているが、二十一世紀を迎えるこの機会に、暗い閉塞感を打ち破り新しい発展のスタートとしたい。

いわゆるバブル崩壊以後の日本社会は下降の一途を辿っているように見える。古代ローマや唐の歴史を顧みるまでもないが、「昔から栄えた国はあるけれども、栄え続けた国はない」という言葉がある。

戦後日本の歩んだ一九六〇年代、七〇年代、八〇年代の繁栄の最中に、実は現在の衰退の原因が潜んでいたのである。

二十一世紀を迎えて、われわれは過去の栄光の思い出を捨て去り、全く新しい発想で次の時代を構想しなければならぬ。

例えば我らの故郷の北海道は十九世紀以降、繁栄と衰退を繰り返してきた。江戸時代末期の「江差の春は江戸にもない」といわれた繁栄は、鯨の大漁によって得られた魚肥が、西日本で木綿など換金作

物の栽培が盛んになり、木綿への肥料として価値が高まり、北前船航路の安定した発展と相俟って、未曾有の好景気をもたらしたのであった。しかし木綿栽培は安い輸入品に押されて衰退し、肝心の鯨も不漁が続き一九五〇年台に姿を消してしまった。

明治に入って開拓使による新しい投資、例えば鉄道敷設による交通網の整備や連絡船の大型化、ドックの設立などがあつた。何よりも日露戦争の利権として獲得した北洋漁業の展開を忘れることは出来ない。戦前の道南・函館の経済は日魯漁業とドックと国鉄の三つで成り立つと言われた所以である。しかし敗戦によって総てが破算となる。北洋は閉ざされ、鉄道は空に客を奪われ、貨物はトラックに代わり、ドックは連絡船や北洋向けの船舶需要を失って衰退する。

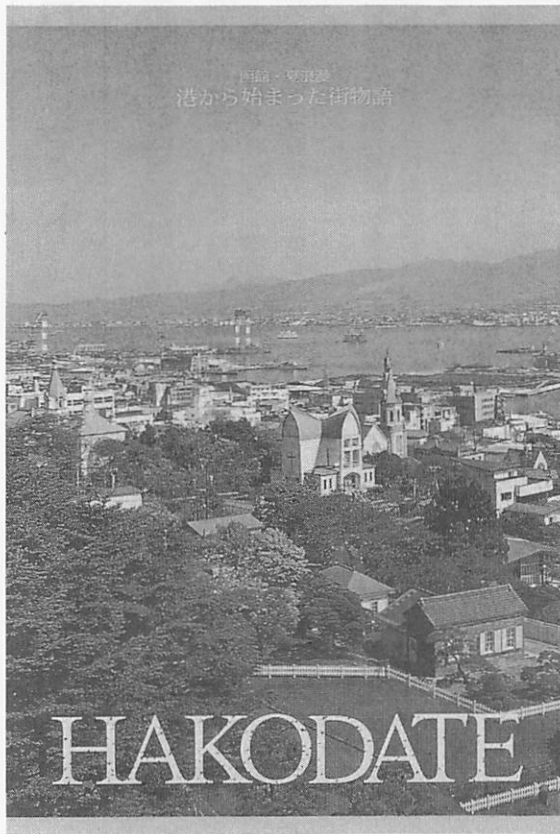
では戦後これらに代る産業として、水産加工や観光に力点が置かれているが、可能性は大いにある。観光は国際的にも

通用する観光資源を抱え、立派な空港も手近にあつて有望である。これらの可能性の高い産業をどのようにして更に活性化して行くのが二十一世紀の道南・函館に問われることになる。

東北新幹線は近い時点で青森に到達する。今まで新幹線の終点として、思いがけない繁栄を享受してきた盛岡に代って、青森がその位置につくことになるであろう。しかし新幹線規格の青函トンネルを使わない手はないから、当然新幹線函館乗り入れが現実のものになるに相違ない。その時点で道南・函館地方の観光は様変わりをする筈である。

我々はいつも郷里の発展を心にかけて、何かお手伝いすることがないかと考えている。幸い東京を中心に関東各地に道南・函館出身者が多く居住して、道南会をはじめ各町村のふるさと会も活発に活動している。そこで道南会創立四十周年の節目に当たり、道南会が世話役を買って道南のふるさと会のネットワークを作つて、郷里に役立つ情報交換や建設的な提案をしてゆきたいと思つた。

また道南地方の小・中・高校の同窓会活動も活発で、これらのネットワークも徐々に作り上げて行きたいと思う。ふるさと会や同窓会の活動の中から郷里の活性化に役立つ提案を検討し、いろいろなチャンネルを使って郷里に働きかけて行きたいと思つた。



# 函館市 三大プロジェクト

## 「公立はこだて未来大学」開学

函館市民はじめ道南会の皆様からもご寄付を頂いた「公立はこだて未来大学」は、全国から集まった一期生二五一名の学生を迎え、去る四月七日に入学式を行った。

また、六月一日には開学記念式典を行ない開学を祝った。「輝きの彼方」と名付けられた開学記念モノユメントの除幕式も行なわれ、大学設置に尽力された木戸浦前市長の好子夫人とお孫さんも参加されて前市長の功績を讃えた。

## 「新・市立函館病院」開院へ

新しい市立病院の建築は五稜郭駅の裏側で進められていたが、建物は四月に完成し、現在医療設備の設置に取りかかっている。新病院は「温かいもてなし」を基本理念に、機能的、快適性、経済性、災害対策等を重点に設計されている。

地下一階、地上六階建て、診療科目目十二科、病床数八五〇床という規模で、地域災害医療センターとして災害時の救命救急医療を確保するためのヘリポートも屋上に設けられている他、免震工法も取り入れられている。

救命救急センター、臨床研修病院、地方センター病院に指定されていることなどから、高度・特殊・先駆的医療を積極的に取り入れ、道南の医療機関との連携を密にし、南北海道の基幹病院としての役割を果たす。

なお市立函館病院は西暦二〇〇〇年の今年が、創立百四十周年の記念の年にも当たる。



開院を待つ市立函館病院

## 「函館駅周辺整備事業」具体化

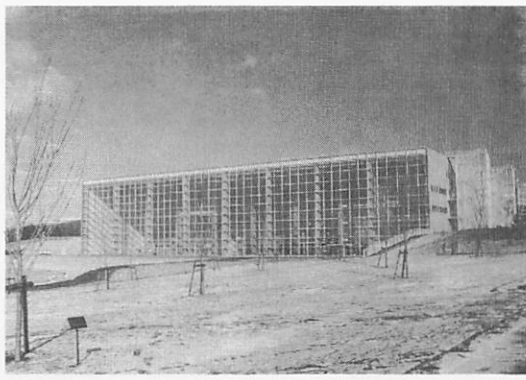
函館駅の周辺地区は、かつては交通、商業、行政の中心地として発展してきたが、人口の移動と共に、本町・五稜郭地区や美原地区へ都市機能が移っている。

このような地盤沈下の進む函館駅周辺の再生と活性化を目指し、新幹線の乗り入れにも対応できる駅舎の新築や、駅前広場の整備、道路の整備など、新たな広域交通の拠点としての機能の充実を図るため、平成六年に「函館駅周辺整備構想」を策定した。

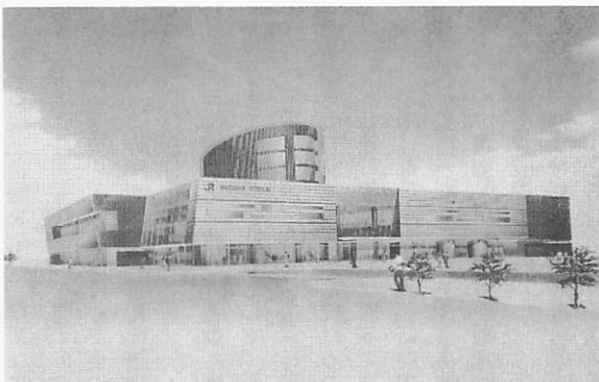
この構想は駅前広場から駅裏側の港湾埋立予定地を含めた約三十ヘクタールが

対象となる。このうち土地区画整理事業で、駅舎や駅前広場地区の九・八ヘクタールを整備し、平成十五年に新駅舎をオープン、十六年に駅前広場の完成を予定している。これによって長年懸案であった函館の玄関口が整備され、駅前・大門口の活性化に弾みがつくものと期待される。すでに今年2月にJR北海道から新函館駅舎のデザインが発表された。

新駅舎は二階建て、延べ床面積六千六百ヘーベ、中央部の高さ二十五メートルの吹き抜け塔が特徴で、日中は自然光が差し込み、夜間は光が外に漏れて、函館市のCIに「ひかり」を尊重したデザインとなっている。



総ガラス張りの未来大学校舎



新函館駅舎予想図

# 私のハプニングと函館・松戸テニス交流会

室谷邦雄（会長）

本年八十二才になる私は、健康で元気を自慢にしていますが、四月十七日に突然急性心筋梗塞を起こし、九死に一生を得るといふハプニングに遭遇しました。

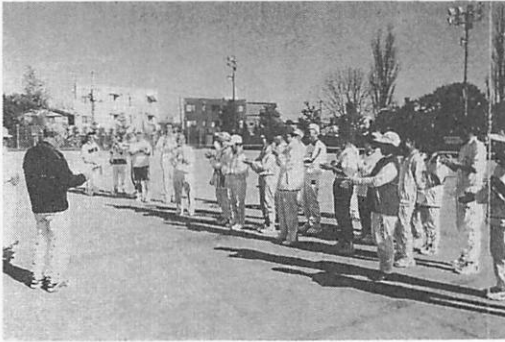
胸が圧迫されるような感じがとれないので、健康診断でもしてみようと思ひ、病院で診察をしてもらっている最中に発作を起こし、直ちに手術室入りした次第です。医師から「貴方は運のよい人だ。よそで倒れて救急車で運ばれて来たら、手遅れで手の施しようもない急性のものであった」と聞かされて吃驚しました。お陰さまで三週間の入院で元通りの身体になり、テニスもやれるようになりました。

今回のハプニングで、いくら平素元気だからといつても、歳相応のガタがきていることを痛感しました。世の中万事塞翁が馬といいますが、おおごとになるか、それを避けられるかは、本当に「運」のように思ひます。そして、私はきつと誰かに見守られて、事なきを得たのだと思ひかけられません。皆さんに心から感謝をしております。

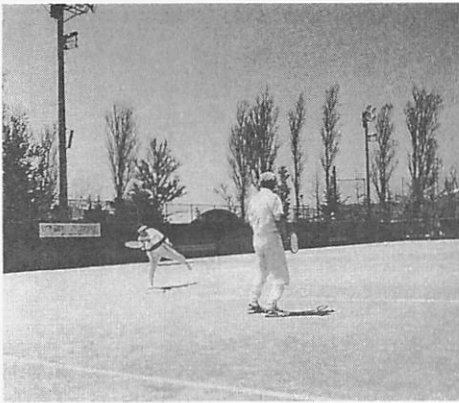
今後は自分の健康を過信することなく体調に気を付けて、いつもと一寸でも変わったサインがあったら、直ちに医師の診断を受けるようにしようと、しみじみ感じました。

さて話は変わりますが、今年の五月十九日、函館テニス協会に「シニアテニスクラブ」が結成されました。この機会に私が会長をしている松戸市の「フレッシュユテニスクラブ」の有志十六名と共に、親善試合のため観光をかねて二泊三日の函館訪問をしてきました。幸い天候に恵まれ、函館山からの夜景を満喫し、函館側の参加者二十四名と楽しく親善テニスに興じて来ました。函館中学時代に出来なかつたテニスを、この歳になつて千代が岱公園のオムニコートで実現出来たことに大満足しています。

この親善大会は今後、毎年函館と松戸



函館・松戸チームの交歓



オムニコートでの熱戦

## 道南会創立四十周年

### 記念行事(案)

- 一、記念式典を兼ねた新年総会  
平成十三年一月二十日(土)午後  
プレスセンタービル十階ホール
- 二、ふるさと訪問旅行  
平成十三年八月一日〜三日  
函館みなと祭に参加と記念植樹
- 三、四十周年記念誌の発行  
道南会行事回顧写真他
- 四、協賛名刺広告の募集

で交互に開催することになっていきます。函館と松戸の關係は、昨年両市観光大使の交流会を実施したりして親密な關係にあります。将来これらを契機に両市の親善都市としての結びつきができればこの上もないことです。

## 道南会創立四十周年記念行事

平成十三年に道南会は創立四十周年を迎える。そこでどんな記念行事を行なうか目下具体案を検討している。勿論会員各位のご提案を頂いて最終的に決定するが、現在までに恒例の行事について、上記の案が固まっている。

まず十三年の新年総会を創立四十周年記念祝賀会として盛大にお祝いをする。この際、四十年間に会の活動に貢献された方々の功績を讃えて感謝の意を表す。また道南地方の町村のふるさと会の代表をお招きして、連帯を強めることなども実行したい。

四十周年の記念行事として「ふるさと訪問旅行」を「函館みなと祭」の時期に合わせて、祭りに参加する。また懸案の記念植樹を行なう。

四十周年記念誌を発行することとし、写真を多用して印象の強いものとしたいので、会員秘蔵の写真等も借用できれば幸いである。編集の時間も考えて十三年の夏頃の刊行を予定したい。

いずれにせよ予算の伴うことばかりなので、会報や記念誌に名刺広告や關係企業の広告なども積極的に募集したい。

この他斬新なご提案をお待ちしているのではありません。ご意見をお寄せください。

(田沼記)

# 靖国神社女性祭神第一号

## 松前藩、烈婦・川内美岐

弦巻 綱男 (松前会長)

明治元年(一八六七年)十一月五日、

松前で徳川脱走軍と松前藩の攻防戦が展開された。攻める徳川方は土方歳三を最高指揮官に、彰義隊、陸軍隊、一連隊、会津遊撃隊七百五十人で攻撃、迎え撃つ松前藩側は城内の蛸崎邸以下四百五十人の兵力で必死の攻防戦が行なわれた。

兵力兵器に劣る松前藩側は最後の抵抗に賭けたが城を奪われ、城下の三分の二を焼失するという大惨事を受け、藩兵も城下に火を放つて館城(厚澤部)に後退した。

出陣した足軽北島幸次郎の妻美岐は、足軽長屋で兵火の中、老人や子供たちを見守りながら戦況の行方を見ていた。夫の幸次郎がろくに戦わず逃げまどつていくことを聞き、また松前藩の要の福山城も徳川軍に占拠されたことに悲憤慷慨のあまり、鉄で喉元を突いて自殺をとげた。三十七才であった。

明治二年五月、五稜郭は開城、箱館戦争は終結した。二年間に亘る戦いで蝦夷地唯一の勤王軍でありながら、戦いに敗れた松前藩は、明治新政府に激戦中の顛末を忠義の士や個々の美談を盛り上げて上申した。

七十二才で城中本丸で割腹自刃を遂げ

た田村量吉、俎板を盾に奮戦した三上超順らと共に川内美岐の義憤自刃を大きく取り上げた。

それに引き換え夫の北島幸次郎は妻の死を省みず、徳川軍政下の松前に潜入していたのは情弱の至りとして、足軽の身分を取り上げた。

美岐の美拳を称揚して、その子北川恵太郎に松前藩からお沙汰が下った。「その方の母、昨冬御開城の折、殿様のご安否行末を深く心配し、誠の忠よりついに自殺したのは、節婦の龜鑑拔群である。

よつて恵太郎には永世十人扶持を与えそのほかの子には米三俵ずつ与える。」

(松前藩福山日記より)

つまり夫幸次郎の身分を剥ぎ、恵太郎には十人扶持、その他の子供らには米年三俵を与えるという破格の恩典に浴した。

明治二年、政府は箱館戦争戦没者を函館、松前、江差に管修墳墓を造つて祀つた松前招魂社の六十七基の最末尾に「烈婦川内美岐之墓」が収められているが、松前町豊岡の神止山の中腹にある墓地を訪れる人は少い。

川内美岐、天保元年松前の川内家に生まれ、北島幸次郎と結婚、長男恵太郎はじめ複数の子をもうけた。自殺後川内姓に復するよう命じらる。政府の命で靖国神社に女性祭神第一号として祀られた。

(資料 松前歴史談、函館図書館松前

維新記より)

# 「二回しか歌われない歌」(訂正版)

相馬 正樹 (道南会顧問)

平成十二年新年号の会報に掲載して頂いた「奉迎歌」を、詳しく調べましたら、四ヶ所間違いがありましたので、三番も追加して訂正いたします。

またその中で触れました女子青年団が昭和天皇の前に進み出て歌った奉祝歌の歌詞も判りましたので、両者の全歌詞を披露して、お詫びいたします。

(網かけ・訂正箇所)

奉迎歌 北海道庁謹撰

一 拓けゆく十一州

波あらし島のはてまで

おゝ燦たり大御稜威

いざやいざ仰ぎまつらん

道民われら

二 秋深き十一州

菊の香の高きが中に

おゝ燦たり大御旗

いざやいざ拝みまつらん

道民われら

三 貔貅滿つ十一州

磐石の堅きまもりに

おゝ儼たり大御國

いざやいざ讃えまつらん

道民われら

御親閔奉唱歌

一 豊秋の光照り添ひ

菊の香の満てる北國

大御旗仰ぎまつれば

嬉しさに心は躍る

二 遠つ神わが大君の

尊くも崇き御姿

眼のあたりに拝みまつれば

畏さに涙は溢る

三 御民われ生ける効あり

今日の幸とはに忘れじ

山彦も答えするまで

万歳と讃えぞまつる

昔、物理学者で子規門下の寺田寅彦が面白い話を書いていた。日本通で知られているドイツの物理学者が、ある日俳句を作ったと言つて友人の日本人に自慢した話である。それは

\* 鎌倉に 鶴がたくさん おりました というのであつた。成程ちゃんと五七五の音律には適合している。いわれを聞いてみると「昔鎌倉時代には鶴がたくさんいた、そんな史実があるが今日では一羽も見られなくなつて、世の中が変わつてしまつた」という感慨を十七文字にしたのだそうである。おかしいが、この話は「俳句とは何か」という問題を考えるのに大いに参考になる資料だろうと言つてゐる。

このドイツ人の感覚からすれば

\* この土手に 登るべからず 警視庁  
でも俳句だと言えないこともない。

また、芭蕉の句

\* 五月雨を 集めて早し 最上川  
を英国人が英訳したものをもう一度日本語に戻してみると

「いかに早く動くよ、五月の雨は寄せ集められて最上川に」

となつて、俳句の翻訳に疑問を投げかけていた。英語国人には、五月雨が降つたために最上川の流れが早くなつたという意味はよく理解できても、言葉から受けるリズムが理解出来ないから、水嵩の増した最上川が躍動して、その場

でしか感じられない雰囲気は想像できないからであろう。俳句の心は、いかに名訳をしても外国人に理解させるのは無理なものはなからうか。

最近日本の英文学者が翻訳した俳句を  
読んだら

\* 柿くえば 鐘が鳴るなり 法隆寺  
よく知られた子規の句が次のように英訳されていた。

「eating persimmons when the  
bell peals Horvujii Temple」

これを欧米人が読んだら、「法隆寺の鐘を

## 俳句のむずかしさ

相馬正樹

聞きながら柿を食べている」

としか伝わらないだろう。この訳者は日本人だからせめて

「柿を食べていたら

鐘が響いてきた 法隆寺の」

としてリズムでとらえて欲しいという願いが伝わってくる。どうしても五七五

のリズムにこだわりたいようだが、英語で日本語の韻を伝えるのは到底無理である。一流の俳人で同時に一流の外国語

学者でないかぎり、俳句の翻訳には手を下さない方が無難なようだ

これがドイツ語となると。良くしられ

た芭蕉の句に

\* 古池や かわず飛び込む 水の音

というのがあるが、われわれはこれを「古池に蛙が飛び込んだ音がしたことでかえつてあたりの静けさが再確認させられる」という気持ちで詠んだものと教わつた。ドイツ文学者の小塩節さんの目にふ

れたドイツ語訳のこの句は

「古池に蛙がつぎつぎに飛び込む音が鳴り響くのが賑やかで楽しい」

となるそうだ。これはドイツ語では名詞に単数と複数数の区別があつて、それが複

数になると何匹も続けて飛込む音になつてしまふからである。それではうるさくて静けさどころではない。こう考えてみると、欧米人にはどうしても俳諧は理解できないのではないかと思われる。とい

うのは、われわれが正確にゲータやシェークスピアを理解出来ないというのと少し違つて、その上に何か難しさがある

ような気がする。後者には世界に共通な人間性が基調になつてゐるが、前者には日本人に固有なものがあるからで、それ

は何かと問われれば「それが俳諧である」と答えるしかない。

このように考えると、俳句が広く世界に紹介されても、日本の心が理解されるとは思われない。異文化とはこれを言うので、風俗習慣が違うと翻訳して文字で伝えられるのは、その事実とか風景の描写だけであつて、長い伝統のある俳諧の心を伝えることは本来無理なことと言わねばなるまい。

付言

以上は私の自己流の俳句に対する感覚であるが、若い頃に文学に関心があつて、気紛に読み漁つたころの感覚から一歩も進歩していない。それは、その後数十年の間、文学とは無縁の電子工学を生業としてきたためである。従つて自分が知りたいと思つて未だ判らないことばかりであり、俳句の宗匠を任ずる方には、たわごに過ぎないものであるが、全然畑違いのディレクタント（文学・美術を趣味として愛好する）の放言も時には何かの参考になるかと思つて、ただ心の赴くままに書いたものであることをお断わりしておく。

（道南会顧問）

「く行」

くさらがす 腐らす  
ぐたつと ぐつたりと  
くつちやべる 喋りまくる  
ぐつちやり げんなり  
くまる もつれる

「け行」

けつば ぶり 最後  
けつばる 頑張る  
けつばれ 頑張れ  
けなさい ください  
けれ、けれ くれてやる  
げれつば ぶり 最後

「こ行」

こきたない 薄汚れた  
こくわ サルナシの実  
こしよいも 馬鈴薯  
こちよがす くすくす  
こつぺかえす 失敗する  
こつぺくさい 生意気おしゃま  
こめ かもめ  
ころ いかのはらわた  
こわい くだびれる  
ごんぼほる 駄々をこねる  
(だはんこく)

「き行」

さあさ ちえつ しまった  
さい 田舎  
さかぶ 叫ぶ  
さぐり 隣との境の板塀  
ささくれ さかむけ  
さつと 簡単に直ぐに  
ざつぱ 魚のあら  
ざるがに ざりがに  
さんじやく 兵児帯

「し行」

じえんこ お金  
しちがえる 筋ちがいをする  
し のる 撓う 反る  
しばれる 凍る  
しゃつこい つめたい  
しゃぐ 杓子  
しゃべる ものをいう  
じよつぱる 強情をはる  
じよつぱりもの 強情者  
じよつびんかう 錠をかける  
じり 戸締まりをする  
霧

道南会全行事記録

道南会の定例の新年総会、夏期懇親会の他に平成九年から、毎月一回、見学会、

〔平成十年度〕

散策会、などを行なっており、毎回二十名から四十名を越える会員が参加している。  
確かに年二回の定例会だけでは物足りず、珍しい見学会や、郊外に出て一緒に弁当を開いて花見等を楽しんだりすれば親しみも深くなる。通算三十六回になる行事記録をご覧頂いて、なるべく多くの会員の参加を期待すると共に、新しいアイデアで行事への希望やご意見を聞かせて頂きたい。以下全行事を列挙する。

〔平成九年度〕

\*三月八日(土) 新宿御苑 四十名  
梅見の会 四十名  
\*四月十九日(土) 森林試験場(高尾) 四十名  
観桜会 四十名  
\*六月十四日(土) お台場 十五名  
羊蹄丸見学会 十五名  
\*七月二日(水) NHKスタジオ 二十七日  
大河ドラマ見学 二十七日  
\*八月二日(土) 千葉サッポロビール 三十名  
工場見学 三十名  
\*八月十九日(火) 鬼怒川温泉 二十五名  
一泊旅行会 二十五名  
\*十月四日(土) 手織座 十五名  
観劇会 十五名  
\*十一月八日(土) 森林公園 十三名  
ハイキング 十三名  
\*十二月三十日(土) 築地 二十二名  
築地市場視察 二十名  
\*三月七日(土) 神代植物園 三十名  
観梅会 三十名  
\*四月四日(土) 小石川植物園 三十五名  
観桜会 三十五名  
\*四月二十五日(土) 亀戸 香取神社 八十名  
松前桜を観る会 八十名  
\*七月七日(火) NHKスタジオ 二十五名  
大河ドラマ見学 二十五名  
\*七月二十五日(土) 千葉サッポロビール 三十名  
工場見学 三十名  
\*九月二十六日(土) 両国 二十五名  
江戸東京博物館 二十五名  
\*十月二十八日(水) 松戸 三十名  
戸定邸見学会 三十名  
\*十一月四日(土) 草加 二十五名  
芭蕉と草加煎餅 二十五名  
\*十二月十九日(土) 築地 三十名  
築地市場視察 三十名  
〔平成十一年度〕  
\*二月二十七日(土) 新宿御苑 三十五名  
観梅会 三十五名  
\*三月十九日(土) 青梅吉野梅郷 十一名  
観桜会 十一名  
\*四月三日(土) 小石川植物園 四十名  
観劇会 四十名  
\*四月十日(土) 立川昭和記念公園 二十名  
観桜会 二十名  
\*六月五日(土) 京成谷津 三十名  
谷津バラ園 三十名

\*七月十七日(土) 矢切り・柴又 三十五名

野菊の墓他

\*八月七日(土) 千葉サッポロビール 四十五名

工場見学

\*九月二十五日(土) 立川昭和記念公園 三十五名

コスモス鑑賞会

\*十月二十三日(土) 葛西臨海公園 三十五名

水族館等見学

\*十一月二十七日(土) 横浜・三溪園 三十名

庭園と紅葉見学

\*十二月二十二日(土) 築地 二十五名

築地市場視察

## 十二年度行事報告

### ☆「新年総会」

一月二十二日(土) 午後一時より。

日比谷のプレスセンタービル十階ホールで開催。参加者は上京された井上市長、中村商工観光部長はじめ来賓をふくめて一〇八名であった。室谷会長の挨拶、井上市長からの祝辞と両館の現状報告に続いて業務・会計・監査報告のあと、山下名誉会長の発声で乾杯して祝宴に移った。久しぶりに顔を見せた市長や中村部長を囲んで話の華が咲いた。途中でで大阪から見えた「函館を思う会」の池田克彦代表の熱の籠もった挨拶や、新入会員の紹介があり、最後に参加者全員に当たる福引きを楽しんでから能味副会長の関東一本締めで三時半に閉会。

### ☆「観梅会」

二月二十六日(土) 午後、薄曇り中を「府中の森公園」に三十三名の参加者が

集まり、起伏に富んだ公園高台の梅林の一角で、ビールやお酒を酌み交わし弁当を開いて歓談した。満開の紅梅の前で写真を撮って二時半解散。



井上市長と松田顧問



満開の紅梅の前で

### ☆「観桜会」

今年の観桜会は四月八日(土) 十一時から駒込の六義園に四十七名が参集。美しい春の日差しの中、柳澤吉保の作庭した園内を散策した。正門正面の見事な枝垂れ桜は満開で、小径を辿り池を眺めながら園内を一周して、道の傍らの芝生で弁当やお酒を楽しみ、午後二時散会。



正門前の枝垂れ桜をバックに

### ☆「皇居拝観」

かねてから計画していた「皇居拝観」は早坂茂三さんのご斡旋で実現した。五月二十三日(火) 午後一時半から約二時間、皇居を内側から見学した。宮内庁庁舎、皇居の代表的な御殿の長生殿、江戸城の面影を残す石組や庭や堀などを宮内庁係員の説明を聞きながら巡回した。大都会の真ん中とは思えない森閑とした静寂な環境に心を洗われた思いで退出した。



長生殿前にて



旧江戸城天守閣跡にて

今回の参加者は三十二名であったが、週日で参加し難い会員も多いので、次回からは予め希望者を募って、毎年一回は実施したいと考えている。

☆「手織座」演劇鑑賞会

六月三日(土)午後二時から高円寺にある手織座の稽古場で開かれた若手演技者による芥川作の「藪の中」他の公演を見た。室谷会長が「手織座」の座長の宝生あや子さんと親しい関係で、後援会の会長をされており、道南会の会員に演劇鑑賞を勧めたいという趣旨で、年一回鑑賞会を続けてきた。公演終了後、鑑賞した六名の道南会員と若手演技者がビールを酌み交わして楽しい一時を過ごした。

☆「東京水辺めぐり」

六月二十四日(土)午後一時、両国の発着場から乗船。折からの梅雨空の中を二十一名の会員が参加した。遊覧船の屋根はガラス張りで、雨は気にならない。兩岸を眺めビールと弁当を楽しみながら船は隅田川を浜町、越中島、お台場、有明と下り、葛西臨海公園から荒川を遡航

道南会夏期懇親会

平成十二年の夏期懇親会を次の通り開催します。

一、八月二十六日(土)午後一時

(受付開始 〇時三〇分)

二、場所 ホテル聚楽(じゅらく)

(お茶の水駅傍・地図別添)

三、会費 六〇〇〇円

(女性 五〇〇〇円)

◎ 八月十八日迄に同封返信葉書

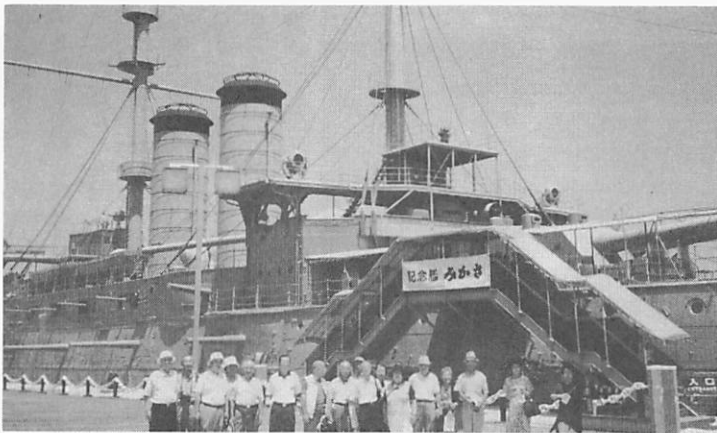
を必ず投函して下さい



し、平井、小豆澤を通り、新旧の荒川放水路の閘門を見て、神谷から再び隅田川を下る。荒川遊園、千住、桜橋を経て午後六時半に出発点の両国に戻った。五時間半の長旅ではあったが新旧の東京の面影を満喫した半日であった。

☆「横須賀散策」

七月二十二日(土)十一時に横須賀中央駅に集合。二十八名の会員はまず記念艦三笠を見学して、日本海軍の戦史に思いを馳せた。見学を終えて最近町起こしで売り出し中の「海軍カレー」の店を訪ねる。昔風の懐かしい味のライスカレーは、牛乳、サラダ、コーヒーがついて七百円と安い。昔、帝国海軍は金曜日の昼食はカレーライスであったという伝統を再現しているようだ。会食後、横須賀の街を散策して流れ解散。



「三笠」の前に全員整列

同窓会だより

◆東京常盤会

六月二十四日(土) 十二時

神田 桃園 参加者 四十名

◆東京函商同窓会

七月八日(土)

品川プリンスホテル 二百二名

◇東京幸小学校同窓会

九月三十日(土)

東京大神宮会館

◇東京弥生会

十月二十日(金) 午後六時

日本橋 三越

◇白楊ヶ丘同窓会東京支部総会

十月二十七日(金)

日比谷 星稜会館

◇東京青柳会

十一月十七日(金)

ダイヤモンドホール(青山)

◇函館遺愛同窓会

十二月一日(金)

アイビーホール 青学会館

会報「道南」十二年夏期号

発行 平成十二年七月三十一日

発行所 北海道道南会事務局

中央区日本橋三六一十

印刷所 (株)ソーラン社 (株)邦友内

中央区日本橋小伝馬町十六八